

日本災害看護学会 令和6年能登半島地震・能登豪雨災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日：2024年10月20日（日）

活動隊員：金谷雅代

1. 活動期間

2024年10月19日（土）8時30分～ 16時50分

2. 活動場所

避難所：珠洲市立大谷小中学校（珠洲市大谷町1字78番地）

3. 珠洲市の被害状況（10月15日14時現在 石川県庁情報 第165報）

人的被害 死者：126人 うち災害関連死：29人 負傷者：重症47人、軽症202人

住家被害 全壊：1,742棟、半壊：2,056棟、一部損壊：1,756棟 非住家被害：5,995棟

避難所 開設11箇所 避難者数82人

令和6年奥能登豪雨による被害等の状況 珠洲市（危機管理監室）

（10月18日（金）14時現在 第24報）

人的被害 死者：3人 行方不明者：0人 負傷者：軽症9人

住家被害 全壊：8棟 半壊：36棟 一部損壊：59棟

床上浸水：113棟 床下浸水：401棟 非住家被害：調査中

避難所開設状況 10箇所 避難者数45人

4. 避難所の状況

【避難者数】

大谷小中学校 10月19日：28人

【避難所運営と生活状況】

避難所には石川県からの応援職員が2人おり、避難所運営を補助していた。断水状態は持続している。給水は屋外タンクに十分満たされていた。数日晴天が続いたためか、戸外の仮設トイレに汚れは目立たず、靴置き場の汚れもなかった。体育館入口前も砂があまり見えなかった。昼から強い雨が2時間程度続いたが、夕方までに泥付きの長靴が増えることはなかった。靴洗い場の水もきれいで、降雨時の泥汚れも取りやすいほど水が確保されている。

外部支援者から炊き出しの提供があった。近隣の在宅者も昼食を摂りに来られていたが、昼に大雨となったためか、在宅者は少なかったようである。

在宅者の持ち帰り用上水は、支援物資のペットボトルではなく、給水バッグの水にするとのことと準備されていた。

5. 支援活動の実際

スタッフミーティングの後、トイレ掃除、床掃除等の環境整備を実施した。戸外トイレは清潔が保た

れており、ブルーシートの交換はせず、床は次亜塩素酸での拭き掃除とした。屋内トイレも生活が保たれていた。体育館内の床は変わらず掃除の度に汚れが多く取れる状況だった。

普段は朝早々に出かける避難者が在室していたため、声をかけ、健康状況を尋ねたところ、ふらつきがあり、受診して内服薬が追加されたことや検査を受けてきたことなどを話してくださった。

また、自ら血圧測定に来た方一人は血圧が高かった。自覚症状はなかった。震災後血圧が200まで上昇し、内服していたが、安定したため、医師の指示で休薬しているということで、毎日測定していただくように伝えた。血圧手帳は豪雨災害で水に流されたため、血圧手帳を手配することもお伝えした。

在宅者を3軒訪問した。1軒は住居内からの返事がなかった（家族との同居者）。1軒は独居の方で、病院に検査入院し、自宅に戻っているとのことで訪問依頼があった。病院で受けた検査や治療内容を話してくださった。震災後に自身と友人とで建てたという住居で生活していた。兄弟の支援も受けられることが確認できた。もう1軒の対象者は、震災時に転倒し、圧迫骨折後とのことだった。ADLは自立しており、息子との同居で心強いと話された。3軒訪問したところで強い雨となり、道路状況を考えて訪問を終了した。

6. 支援活動を通しての所感と課題

咳嗽のある人や咽頭痛を訴える人が散見された。粉塵の呼吸器への影響、寒暖差等考えられるが、備え付けの薬剤でも改善しない場合は受診を勧めていく必要がある。発熱者はいなかった。また、随所に含嗽薬が設置されているため、含嗽も勧め、呼吸器感染予防と悪化予防が必要である。

在宅者の訪問は、天気によって左右される点がある。土砂流出の危険のある箇所がいくつかあり、天候と道路状況を見ながら適切に判断、行動していきたい。

血圧が高めの人が出てきた。今後寒さも加わってくるため、高血圧のある人のコントロール状況に注意していく必要がある。

7. 写真

